

船舶事故調査報告書

平成27年8月27日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 庄司邦昭（部会長）
 委員 小須田 敏
 委員 根本美奈

事故種類	火災
発生日時	平成27年3月7日 17時00分ごろ
発生場所	香川県高松市小槌島 ^{こづち} 東方沖 小槌島灯台から真方位098° 1.27海里付近 （概位 北緯34° 23.60′ 東経133° 56.89′）
事故調査の経過	平成27年3月9日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーボート ロミオ、19トン 280-33872 広島、株式会社広工電 14.83m (Lr) × 4.57m × 2.25m、FRP ディーゼル機関2基、259kW（合計）、平成3年7月
乗組員等に関する情報	船長 男性 24歳 一級小型船舶操縦士 免許登録日 平成22年5月19日 免許証交付日 平成22年5月19日 （平成27年5月18日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	機関室、操舵室及び上甲板が焼損
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、知人（以下「同乗者」という。）1人を乗せ、小槌島東方沖を約10ノットの対地速力で東進中、平成27年3月7日17時00分ごろ、操舵室下方の機関室出入口付近から黒煙が発生した。</p> <p>船長は、機関を停止するとともに操舵室後方の出入口付近にいた同乗者に機関室付近から黒煙が発生したことを知らせていたところ、炎が上がって来たので、2人で後部甲板に避難した。</p> <p>船長及び同乗者は、火勢が強まり、危険を感じたので、近くにあった救命浮環を海面上に投げて海に飛び込んだ。</p> <p>船長及び同乗者は、陸を目指して泳いでいたところ、付近を通航していたプレジャーボートに救助された。</p> <p>本船は、通航船舶から通報を受けて駆けつけた巡視艇が消火活動中、沈没した。</p>

	(付図1 事故発生場所概略図 参照)
気象・海象	気象：天気 雨、風向 北西、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏
その他の事項	<p>船長は、出港前に機関室内の点検を行ったが、燃料油（軽油）の漏れや異臭等を認めておらず、また、主機の始動後、両舷側外板に設置された排気口から冷却海水が正常に吐出していることを確認していた。</p> <p>船長は、黒煙を認めた際、プラスチック等が燃えるような異臭は感じていなかった。</p> <p>本船は、平成27年1月に中古で購入され、機関整備業者によってバッテリーの交換及び係留運転が行われ、また、本事故発生の2～3日前に試運転が行われたが、異常は認めなかった。</p> <p>船長及び同乗者は、救命胴衣を着用していた。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	不明 不明 なし 本船は、小槌島東方沖を東進中、機関室から出火したものと考えられるが、出火した状況を明らかにすることはできなかった。
原因	本事故は、本船が、小槌島東方沖を東進中、機関室から出火したことにより発生したものと考えられる。

付図1 事故発生場所概略図

